

グラウンドワークとは・・・

市民・企業・行政がパートナーシップをとりながら、地域の環境改善などを行う活動です。あなたもぜひ活動にご参加ください。  
(文中グラウンドワークをGWと表記することがあります。)

## GW三島のアルバムから



17.3.29 三島測候所の保存活動のために、三島市東本町2丁目町内会から524,500円の寄付金が寄せられた。



17.3.13 三島市沢地にあるグローバルガーデンで、県立三島北高校の生徒たちが数年前植樹した、ミモザアカシアの花が満開になった。グローバル文化交流協会会員と同校の現役生たちが剪定をし、黄色の花枝を皆で持ち帰った。

17.3.16 昨夏より整備に取り組んでいた函南さくら保育園のピオトープ「遊子(ゆうし)・トープ」が完成した。大勢の園児たちがメダカやカワニナを放流し開園を祝った。



17.3.5 三島市立公園楽寿園に隣接し、GW三島が昨年から手がけていた「ほたるの里」が完成。当日はカワニナを放流し完成を祝った。



17.4.3. イギリスのGWUK(バーミンガム市)から国際関係担当のデービッド・カークウッドさんが日本の先進地三島市を訪れ、GW三島の手掛けた事例を視察した。



17.4.27 GW三島の新事務所開き。新しい事務所は、広小路のVia701・1F。



17.4.29 大社町にある旧河合家「三嶋曆師の館」がオープン。GWの「三島うみやあもん屋台」も参加した。



17.3.26 EU各国のまちづくり専門家が、国際交流基金の主催するシンポジウムへの参加にさきがけ、まちづくり先進地として選んだGW三島を訪れた。大社町の丸平商店のレトロな香りの土蔵で昼食後、渡辺豊博事務局長からGW三島の活動について説明を受けた。

## 函南さくら保育園ビオトープ「遊子・トープ」完成！

昨年夏から整備に取り組んできた「遊子・トープ」が3月17日開園した。卒園直後の34名が、メダカ、カワニナを放流し、手作りのビオトープに命を吹き込んだ。4月9日に反省会と今後の管理運営の話し合いが行われた。当日、改めて遠藤弥生園長を訪ね、ビオトープを作るきっかけから幼児教育にビオトープが果たす役割について話を伺った。



「この数年、函南町でも『見える自然』があっても『遊べる自然』がなくなってきました。保育の場面でも、子供たちの意欲をかき立てるようなものが減っています。以前のように生活体験をさせてあげたい。環境教育を取り入れるには

心が広がり感性が育てられると確信しました。ここでは地味でも日本古来のものを植えています。観察できる子に悪い子はいません。理科離れは小さいときの体験不足が影響していると思います。そして、ビオトープを作るにあたって皆さんの暖かい協力を受けました。大勢の方に支えていただき幸せです。とても感謝しております」



感慨深げに話される遠藤先生には、環境教育に対するこだわりがあった。ビオトープの必要性を語る話に引き込まれた。子供たちが自由に遊べる空間との思いがこめられた「遊子・トープ」は、まだ土が落ち着かず子供たちは入れないが、自然の植生が根付き始めていた。今は見学者が多く、対応に追われているという。予想外の反応に戸惑っているようだった。

どうしたらいいのかと考えていました。偶然、新設された三島南校のビオトープづくりを見学し、『ああ、これだ！』と思ったんです。

ビオトープは、自然環境の基礎である四季を体験出来るので、観察する心が見つられる。観察から感動、さらに関

### 三嶋曆師の館で

#### “うみやあもん屋台”盛況！！

グラウンドワーク三島・シニア元気工房の「うみやあもん屋台」が三嶋曆師の館の4月29日(祝)オープニングセレモニーに参加しました。朝、9時に工房を出発。スタッフ4人で25分間かけて引いてきました。

三嶋曆師の館を見学を訪れた人たちが立ち寄り、手づくりのもろ箱や竹細工に関心を寄せていました。道具の有効な使い方など和やかな情報交換の場となりました。

今後も、「うみやあもん屋台」は、イベントや商店街に出かけ、「三島の名物」をめざします。

### バイオトイレ 海外の環境改善を担う

GW三島はバイオトイレ(循環自立式バイアニクストイレ)の製造企業である東陽綱業(株)など企業との協働により、環境悪化に苦しむ海外でのバイオトイレの活用を検討しています。今後、バイオトイレの有効性のPRや設置に関わる技術的指導等、総合的な調整役をGW三島が担う予定です。



バイオトイレの設置事業をとおして、地域の環境改善の運動から国際的・地球市民的視点に立った運動へと活動を発展させていくことを目指しています。例えば、自然環境のオーバーユースによる尿問題の解決、地下水汚染の防止、スラム街や難民キャンプでのし尿による疫病発生の防止や住環境の改善など、バイオトイレを活用した国際協力活動の展開を構想しており、現在、その第一弾としてモンゴルの草原への設置を企画中です。

また、三島にも実証実験として最新鋭のバイオトイレの導入を検討していますので、適地があれば事務局までお申し出下さい。

### 「源兵衛川・暮らしの水辺」 土木学会デザイン最優秀賞に

すぐれた風景を生み出した作品を表彰する「土木学会デザイン賞 2004」で三島市の「源兵衛川・暮らしの水辺」が、最も価値ある最優秀賞に選ばれた。

「源兵衛川・暮らしの水辺」は、県東部農林事務所が昭和63年から平成10年まで整備した農業用水路、ため池を多目的に活用した親水公園。湧水の減少など水環境悪化で衰退した水辺の暮らし、文化復活を目指し約1.5kmを8ゾーンに分けて整備。溶岩を多様に使い川の路として生物の生息場や浄化に利用するなどした。

平成5年からは東レ三島工場が源兵衛川への水の通年供給に協力。市民、企業、行政の三者による環境改善の取り組みはグラウンドワーク活動の先駆けにもなった。NPO法人グラウンドワーク三島の渡辺豊博事務局長は、「地域のパートナーシップが生んだ空間が評価された」と語った。

## 英国GWからの視察

GW発祥の地イギリスからGWUK(パーミンガム市)の国際関係担当者 デービッド・カークウッドさんが三島市を訪れた。

4月3日、日本GW協会の関係者とともに、最近完成したばかりの函南さくら保育園のビオトープ、三島市の源兵衛川や「ほたるの里」などGW三島が手がけた実践地を視察した。

「ほたるの里」では、設計者の加藤正之さんや渡辺豊博事務局長から詳しい説明を受けた。カークウッドさんは、「英国のGWをほうふつとさせる質の高いプロジェクトであり、英国よりもデザイン性に優れ、市民の意識も高いと感じた」と感想を述べた。



GW三島のスタッフには三島青年会議所(JC)出身者が多いが、遠藤桂司さんもJCで活動していた。三島JCでは、河川清掃作業や、桜川の浄化作業、ホタル祭り(当時は三島JCの単独事業だった)の実行委員長などを経験し、多くの仲間と知り合う。平成4年には三島ホタルの会の発足に関わり、その後三島ゆうすい会にも参加する。GW三島設立の時には、スタッフとして当初から参加している。

遠藤さんは一見もの静かに見えるが、桜川の清流を取り戻すため、桜川に炭を埋設する水のろ過実験を試したり、10年も前に雨水浸透枡を自宅に設置したり、ホタルを育てたりと、いろいろなことに取り組んできた。

「昭和40年代、どぶ川になってしまったふるさとの川を見た時、きれいな川に蘇らせたい気持ちが大きく湧いてきた。それが現在の活動の動機になっている。今は下水道も普及してかなり良くなってきたけれど、もっと川をきれいにするために活動を続ける」と言う。

三島で生まれ育ち、大学時代は千葉県野田市の片田舎に住んでいた。下宿先は古い農家で、なんと茅葺の家!居心地がよく7年も住み着いてしまった。その後浜松に移り、楽器メーカーでピアノに囲まれ、機械設計の仕事や、知育玩具の開発をしていた。浜松では「日本野鳥の会」に入り、また朝に晩に遠州灘の海を眺め、休日には遠州や三河の山々、浜名湖、佐鳴湖を歩き回っていた。ここで知り合った仲間とは、今でも交流を続けているそうだ。

現在は三島に戻り家業を継いでいる。三島ホタルの会、三島市国際交流協会に参加し、趣味のカメラやパソコンの特技を生かして活動している。GW三島はこの面でも遠藤さんのお世話になることが多い。

家族構成は、奥さんと娘さんが3人。家庭にあってもきっと心優しいお父さんであろう。



## GW三島 新事務所に移転

GW三島の事務所が、三島市本町のVia701に移転し4月27日オープニングセレモニーが同所で行われた。今後はホールも運営し研修にも活用する。

セレモニーでは、メンバー手作りの看板が、緒明實理事長、第3セクター「みしま街づくり株式会社」の柳川武雄代表らによって掛けられた。街の中心部への移転により、今後の商店街の活性化に寄与することが期待されている。

また、GW活動の先進地である三島は視察者が多く、実践地も市内に数多くあり、10月には日本グラウンドワーク協会(東京都)の支援を受けてGW全国研修センターが同所内に開設される予定で、すでに同協会から運営支援のスタッフが派遣されている。



## EU諸国からのお客さま!

独立行政法人・国際交流基金主催のシンポジウム「ひとは市民となり、まちのにぎわいを創り出す」のパネリストとして招かれたEU各国のまちづくり専門家たちが、平成17年3月26日GW三島の実践地見学とGWメンバーとの交流に三島を訪れた。

一行はフィンランド、スペイン、ハンガリー、イギリスの大学などで環境や歴史、都市計画、地域開発、地域通貨などの研究調査に当たる専門家。「おにぎりカフェ丸平商店」のレトロな土蔵の中で昼食の後、渡辺豊博事務局長よりGW



の活動について説明があった。それに先立ち、同席した参加団体のグローバル文化交流協会のメンバーからの「水よ輝け」の歌のプレゼントや「バイリンガル環境かるた」の紹介などもあり交流は和やかな雰囲気にも包まれていた。昼食後は源兵衛川から三島梅花藻の里まで散策をしながら交流を深めた。



# GW三島活動記録 2005年3月-2005年5月 (定例作業・例会・ヒヤリングは割愛)

新報刊

月	日	事業名	内容	場所	参加	
2	21	月	スタッフ会議	今後の事業について	スタディセンター	12人
2	27	日	さくら保育園ピオトープ	第4回工事	函南さくら保育園	40人
3	5	土	ホテルの里	植栽作業	宮さんの川	20人
		土	ホテルの里	完成式	宮さんの川	36人
3	6	日	屋台プロジェクト	屋台のお披露目	三島市観光案内所前	8人
3	12	土	三島ゆうすい会	総会	Via701	50人
		土	ヒヤリング	内閣府・GW三島視察	市内	3人
		土	境川・清住緑地	緑地管理現地研修	境川・清住緑地	20人
3	15	火	日本GW協会	評議委員会	日本GW協会	1人
3	16	水	さくら保育園ピオトープ	卒園式	函南さくら保育園	6人
3	23	水	屋台プロジェクト	屋台のお披露目	三島田町駅前駐車場	8人
	"		長伏小学校ピオトープ	打ち合わせ	長伏小学校	20人
3	26	日	国際交流基金	EU関係者GW三島視察	実践地	10人
3	29	火	三島測候所を保存する会	町内募金の贈呈式	東地区防災センター	20人
4	3	日	英国GW	GWUK来訪:意見交換と視察	富士山総研及び実施地区	5人
4	11	月	スタッフ会議	今後の事業について	Via701	16人
4	17	日	事務局	Via701へ引越し	新旧事務所	15人
4	26	火	清住緑地	清住緑地愛護会総会	西地区防災センター	20人
4	27	水	事務局	新事務所オープニングセレモニー	Via701	10人
		水	事務局	三島市長表敬訪問	三島市役所	2人
4	28	木	編集会議	ニュースレターNo.27について	スタディセンター	7人
4	29	金	三島うみやあもん屋台	三嶋曆師の館オープニングに伴うお披露目販売会	三嶋曆師の館	10人
5	9	月	スタッフ会議	平成17年度総会について	Via701	20人
5	11	水	ふるさときゃらばん	ふるさときゃらばん実行委員会	Via701	10人
5	18	水	編集会議	ニュースレターNo.27について	スタディセンター	8人

境川・清住緑地の生き物観察ガイド 植物編  
 大好評だった「トンボ編」、「野鳥編」に続いて「植物編」ができました。  
 ミシマバイカモ、ミソソバなど、境川・清住緑地に生息している二十六種の植  
 物を写真入りで紹介。ご希望の方は事務局までご連絡ください。



## 視察に訪れたみなさん H17.3 - H17.5

月	日	団体名	地域	人数	月	日	団体名	地域	人数
3	9	静岡県東部農林事務所	静岡県	17	4	2	静岡大学人文学部行政学ゼミ	静岡県	10
3	18	子持村役場 地域づくり担当グループ	群馬県	5	4	3	グラウンドワークUK	外国	4
3	26	国際交流基金文化事業部	外国	8	5	1	中央法規出版	東京都	1

## せせらぎシニア元気工房 メンバー募集中

いっしょにものづくりしませんか

せせらぎシニア元気工房では、昨年度収穫した蕎麦の種を使って「箱根西麓蕎麦」の栽培や、小麦の栽培など、新たな地場農産品の開拓・販売に取り組んでいきます。手作りのパン工房も建設する予定です。

また、引き続き、木工・竹細工などの作業もおこなっています。

活動は三島市加茂町の「悠遊工房ひろかわ」で、毎週火曜、水曜、金曜の午後に行っています。見学も随時受け付けておりますので、興味のある方は事務局までお問合せ下さい。

## 事務局新スタッフ紹介

村上茂之さん



「GW三島」ってなんだろう！？とっていました。学生時代に、境川・清住緑地のワークショップに参加したことがきっかけで、ピオトープづくりに興味がわき、GW三島のこともしりました。実際に大学で培った知識を、ここで実践できればいいなと思っています。これまで、「せせらぎ元気工房」、「屋台によるまちづくりプロジェクト」の資料作成に追われていましたが、直接ものづくりに関わられるように頑張りたいです。

松下重雄さん



東京と三島を往復する癒しの人！  
 日本GW協会から週3日間の予定で、GW三島に出向いています。GW全国研修センターとして、カリキュラムやテキストの作成を今後、目指します。  
 「業務内容は、東京と三島でそんなに違いませんか。『地域再生計画』や『環境コミュニティビジネス』の企画書を作成中で大忙しです。週末は、東京で家族と過ごすようにしています。休みがあつたら本当に休んでいますから、子供とサッカーをして過ごしてみたいですね。自転車の補助輪をとってあげるのは、父親の役割とか…。週末、頑張らないといけませんね」と優しいお父さんの顔がのぞく。

## グラウンドワーク三島 ボランティアニュース27号編集室

大島公好子 川崎徳子 岸野和子 城所祖帝 小松幸子 斎藤彩子 坂井良重 山崎多紀子 GW三島事務局(50音順)